

光といのち

第141号
2023年5月20日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp

住職 釋孝昌（井上孝昌）

南無阿弥陀仏
人と生まれた
ことの意味を
たずねていこう



親鸞聖人が「今」説法されている御影堂前

三月三十日（木）、宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要を勤めて参りました。

昨年三月十日発行した寺報でこの法要をお知らせし、三つのことを実践しようと呼びかけました。

一 毎日、御本尊を礼拝し、念仏申しましょう。

二 月に一度は、寺に足を運び聞法しましょう。

三 法名をいただき仏教徒の自覚を持ちましょう。

当寺の檀家であるみな様に、これを機縁に本当の真宗門徒となっていたきたいからでした。さらに本山、真宗本廟（東本願寺）に足を運びこの法要にお参りしましょうと呼びかけたことでありました。

この日、新型コロナウイルスの影響が心配されましたが、御影堂は満堂となりました。

全国から集まった御同朋御同行と法要を勤め同行の三人が帰敬式を受け、その後の二泊三日は観光旅行とはひと味違うものになりました。食事や移動の車中が、まるで聞法会の座談会の中

様だったのです。

美味しい料理やお酒もいただき温泉にも入り買物もしましたが、何よりもその時間が楽しく有意義でした。題字下の言葉は、慶讃法要テーマです。まさにそのような旅でありました。

この旅を終えコロナ後となった今、思いを新たにすることがあります。

一 住職が率先して親鸞聖人が歩まれた本願念仏の仏道を歩む。

二 皆さんが、聞法会に集まる寺にする。

さあ、初心に帰り再出発！
コロナ禍で始めたオンライン配信。これにより法要や聞法会に参加し始めた方もいます。仏教を伝える努力は惜しみません。
※法名をいただく儀式

勝善寺聞法会

六月四日（日）
十四時～十六時

副住職が法話します。ZOOMで聴聞される方は、前日までにメールでお申し込み下さい。



勝善寺団体参拝旅行に参加させていただき思うこと―宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年慶讃法要―

青木達郎

この参拝旅行に誘われて、すぐに行きたいと思いましたが、どこ、私と寺とは宗派が違い、どうかと思いましたが、住職や回りの皆様がかまわないんだと云っていただき、ありがたく参加させていただきました。本当に良かったです。

先ず高速バスで富楽里から東京駅新幹線で約三時間、京都駅にお降りて人の多いことにびっくりコロナもおさまりつつ外国人観光客の多いこと。

京都駅より歩いて東本願寺に着き受付を住職さんにしていただきしばらくすると慶讃法要が始まりました。

その前に東本願寺の大きなことにびっくりでした。境内に入り御影堂は日本最大級の木造建築と知り二度びっくりしました。人間の造ったものとは思えないくらい壮大で自然に頭が下がります手を合わせている自分がいました。

その日一時から法要が始まり、そして帰敬式とことが進み、その後新潟県の寺の住職さんの法話がありその法話の中で、ご

自分の生い立ちから成人するまでのお話の中で、「子どもの頃弟が身体障害者で学校や子ども仲間では厄介者扱いされず嫌な思いで生活していた。こんな弟ならいなくてもいい、いやいやの方が良いと思うことが日々続いて生活をしている時ある先生に会い弟のことを話したら、その先生云わく、「あなたの弟さんを悪者厄介者に行っているのは、あなた自身がそう決めつけているのではないですか。弟さんだ

んではないはずです。あなたがそう決めつけているだけです。私は、この言葉を一生涯忘れないでしよう。南無阿弥陀仏」と。

人間って普段の生活の中で、このような経験をたくさんしていると思います。自分も改めなくてはと気付かされました。この旅行での一番の収穫です。親鸞聖人の説く気付かされでした。自分は今八十六才になりましたけれど、人生終了すると、よく人生天寿を全うと世間で云う

けれど、まったく違うような気がします。人生何才になっても、努力不足感が多々あります。

この旅で同行した皆様には大変お世話になり、人生の中が広がったような気がして、気持ちが良いのでまたこれからの人生きつと楽しい毎日が来ると期待しています。南無阿弥陀仏追伸で申し訳ありません。

この旅行で副住職さんには色々な面で大変お世話様になりました。京都地区で十一年間生活しているとの事で、素晴らしいナビゲーターとしてありがたかったです。感謝致します。

※これは、翌日の晨朝勤行後の三条教区草野朋哉師の法話です。

釋尼優如川名ふじ子

この度、東本願寺宗祖親鸞聖人人生誕八百五十年立教開宗八百年の慶讃法要という一大行事に住職さんを含む十名の方々と一緒に参加させていただきました。

京都に着いてまず圧倒されたのは東本願寺の広さと大きな観光客も含む人の多さでした。

全国からこの法要に参加され

ている皆さんとても嬉しそうに
みえました。「ああ来て良かった」
という感じです。

法要後、西山さんご夫婦と私
は、御影堂の厳肅な空気の中で
帰敬式を受けさせていただける
機会を頂き感謝いっぱいです。

本山の帰敬式は、一般の方が
入ることができない畳の上に正
座し順番を待ちました。本山の
「新門様」より「おかみそり」
をして頂き「南無阿弥陀仏」と
のお言葉も添えて頂き、これか
ら私は「仏弟子」として歩ませ
て頂くのだなあの思いが感動
に変わりました。

ご一緒に下さった皆さんが
後ろの席で見守ってくださり無
事に終えることができました。素
皆さん有難うございました。素
晴らしい法名もいただきました。

翌朝に頑張って「晨朝法要」
にも参加しましたが、本山のお
経の早さにびっくり、とてもつ
いて行けませんでした。続く法
話も感動させられました。

今回の旅では、参加された皆
さんと研修会の様な座談に盛り
上がり、とても有意義な三日間

でした。

これからは、一層聞法会に出
席せねばと思います。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃法要勝善寺
団体参拝旅行に参加して

勝善寺衆徒 釋徹照 鈴木正一郎
慶讃テーマ「南無阿弥陀仏」

人として生まれたことの意味を
たずねていこう」のもと真宗本
廟（東本願寺）での慶讃法要を
お勤めして参りました。

御影堂門をくぐると大迫力で
御影堂と阿弥陀堂が迎えてくれ
ました。

本山を推進員後期教修受講で
訪れた二千六年五月、得度式で
訪れた二千十七年五月、千葉組
団体参拝旅行で訪れた同じく二
千十七年五月のことが鮮やかに
思い出されました。

慶讃法要では御影堂に内に響
き渡る参拝者の正信偈唱和の声
に圧倒され、身の引き締まる思
いがしました。

私が人として生まれたことの
意味はどこにあるのだろうか
と自問した時、仏説阿弥陀經にあ

る「青色青光 黄色黄光 赤色
赤光 白色白光」に目が留まり
ました。

「あなたはあなたのままで生
きていていいんだよ。」とよびか
けられているように感じて、肩
の力を抜いて私の人生を生きる
ことが、人と生まれたことの意
味ではないかと思えました。

推進員教修受講を思い立った
時、得度を思い立った時の自分
をもう一度確かめることから今
後の私の人生が開かれるように
も思えました。

親鸞聖人から賜った今回の旅
行で出会ったお仲間、勝善寺で
出会ったお仲間とのご縁を深め、
共に歩んで参りたいと思います。



勝善寺門徒参拝旅行

釋志勇 関口昌司

聖人ご誕生八百五十年と立教開
宗八百年を慶び讃える法要に参加
の機会を得て、前回の参詣は何時
だったかと同朋手帳を開いてみた
ら、二〇一八年十月の真宗門徒秋
のつどいと記載あり五年が経過し
ていました。

京都はいつも混雑している国際
観光都市ですが、真宗本廟・東本
願寺は駅から徒歩で行ける恵まれ
た位置にあり、改修されて美しい
阿弥陀堂門と烏丸通りに連なる大
きなソメイヨシノの咲きはじめに
迎えられ、三日間の楽しい旅の予
感がありました。

ご住職から事前に配布された旅
行必携には、「親鸞聖人から賜った
旅行です。ゆつくりのんびり、安
全・健康に心がけ、互いに語り合
い御同朋・御同行の縁を深める旅
行にしたいものです」とありまし
たが、私にとってはこの趣旨にま
るまる沿った三日間でした。

京都国立博物館の企画展「親鸞
「生涯と名宝」は展示品が多く知
らないことばかりで、スイスイ通
過できずにみなさんにご迷惑をお

掛けしました。

大阪府河内郡太子町の磯長御廟は全く知識のなかった聖徳廟で、一度この御廟を参詣すれば極楽浄土へいけると説かれているとありました。



法隆寺は修学旅行の定番ですから訪れているものの、鮮明な記憶が

薄くワクワク感がありました。頂いたパンフレットには聖徳宗総本山・法隆寺と発見があり、象徴的な五重塔は首が痛くなるまで見上げ、迫力の金堂、大講堂から夢殿へ、百済観音像、玉虫厨子などの宝物類は数知れず、太子に相応しい殿堂であることの一端を味あわせていただきました。

奈良国立博物館に入れなかったことは誠に残念でしたが次の機会の大きな楽しみです。

また、地元でありながら初めてお会いした青木様と船橋市から参加された西山ご夫妻は八十代とお聞きして、御同朋・御同行のご縁を深める参詣旅行になりましたこと、ご住職・副住職と皆様に感謝申し上げます。

釋顯照 曾田英樹

アーナン 曾田です。

御同朋御同行の皆様、先日は慶讃法要団体参拝旅行に参加させて頂き、誠に有難うございました。

自身に取りましては、門徒になりましてから三度目の本廟参拝でありました。初回は、手次ぎ寺の奉仕団及び帰敬式、二度目は推進員講座でありました。

仏教の「ぶ」の字も言わなかった父の葬儀で小生初めて仏教に出合いました。それから自分なりに歩んで参りました。二十八年目になりますが、まだまだ無明の中に居る自分が恥ずかしく、宗祖に頭が下がります。

今回、住職には「歎異抄・後序」を読みなさい、また副住職には「はからわないで生きる」ことをさらなる宿題として頂きました。

これからも聞法と生活実験を続けて、「アー何だ！ソーダったんだ！」と光明のさす時が来ることを楽しみに致します。

最後になりますが、今後益々勝善寺が「聞法道場」として世

界に開かれた僧伽となられます様祈念申し上げます。有難うございました。

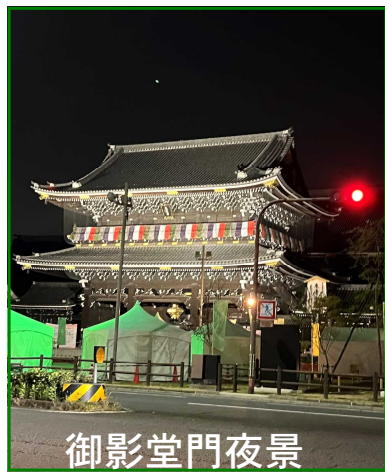
合掌

東本願寺お朝事に参加して

釋晋求 田村晋一

新潟県長岡市、草間朋哉住職の法話を伺って、考えさせられたのは、「私が弟を障害者にしていた。」という言葉でした。

日頃の聞法をお伺いしている折りには、色々な見方考え方があると、とらえておりましたが、何故か分からないけど、この時には、その様な捉え方があるのだと、思いましたのでこれから捉え方については、あらゆる角度から、捉える必要があるのではないかと、今は思っておりませんが、何故なのかがわかりません。



御影堂門夜景

尚、今回の宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年慶讃法要勝善寺団体参拝旅行に、参加させていただいてありがとうございます。参加同行者の皆様にも感謝申し上げます。

親鸞聖人生誕八百五十年立教開宗発百年慶讃法要の団体旅行に参加して

釋紹隆 西山隆昭

三月三十日から四月一日にかけて二泊三日の旅程で十名の同朋と慶讃法要を務めてきました。

個人的には、六年前までは親鸞聖人や浄土真宗について門外漢で、宗派の教義や、親鸞聖人の人となり、業績については全く不勉強でした。それが今回の慶讃法要にお誘いを受けて、参加してみようと思う気持ちになったことに、我ながら驚きました。ましてや、ご住職からも「帰敬式を受式しては？」と勧められた時には自分ごとき者がと躊躇してしまいました。しかし義姉の勧めもあり思い切って受けました。真宗本廟で「剃刀の儀」を受けた際は、これまでに感じ

たことのない厳肅な気持ちにみまわれました。それとあわせてこれからの残りの人生を仏弟子として聞法生活を真摯に送ろうという気持ちがあふつと芽生えてきました。

勝善寺さんとの出会いに触れますが、十七年前に弔った七歳年長の兄の葬儀の場が初対面でした。鴨川に住む兄は、それ以前から近辺に浄土真宗のお寺さんを探していました。なかなか見つかることができないまま経過していましたが、何気なく立ち寄ったお寺に強く惹かれるものがあつたそうです。それが勝善寺さんの門徒としての始まりで、その縁が兄の葬儀でご住職にお会いするめぐり逢いにつながったのです。

今回の団体参拝旅行を通じて受けた感動とご縁を大切に、ゆとりある聞法生活を送りたいと念じております。

最後になりますが、綿密な計画を立てていただいたご住職、京都・奈良を運転された副住職、同行の皆さま、これからもご指導のほどをお願い申し上げます。

慶讃法要勝善寺団体参拝旅行の思い出

釋尼照見 西山照子

この度、参拝旅行に参加させていただきました。二十年ぶりの京都に降り、初めてお参りする東本願寺御影堂にて慶讃法要が済み、その後帰敬式を受けました。帰敬式を受けるなら「ぜひ真宗本廟で受けなさい」と義姉よりお声がけがあり決心した次第です。法要の後、帰敬式に移り「剃刀の儀」に際し、正座合掌して待つこと数分、厳かなお念仏の声とともに髪に剃刀がかすかに触れる感覚があり思わず涙しました。自分でも不思議なことになったに幸せの境地になりました。

法名を賜り「おめでとう、これからが始まりですよ」とご住職からお声があり、私は、運転免許でいえば若葉マークですが、この度のご同朋の方々は先達ばかりで、二泊三日の間、バスの中や夕食で共に雑談ができました。くも難しく勉強になりました。後期高齢者ですが、何とか皆さまついていくことができました。

た。そして副住職様のいきどおいたお計らいで京都・奈良の美しい桜の時期を堪能できました。最後に同行の皆様にも心より感謝申し上げます。

釋尼独秀 渡邊秀子

慶讃法要の参拝旅行は、私にとって自分自身を知る大きなきっかけになりました。それは本山で法話をして下さった先生のお陰です。

その先生には、自閉症の弟さんがいて中学までずっと同じ学校に通っていたそうです。先生はそんな弟さんがいる事で学校では馬鹿にされはらずかしく弟さんを疎ましくさえ思っていた様です。

その事を相談した先生から「皆さんの事を障害者だと思っているのは誰ですか」と問われ「そうか、弟が障害者である事を強く意識していたのは、他ならぬ自分自身にであつたんだ」と痛感されたそうです。

そのお話を聞いて「私は今までどう人と接して来たんだろうか」と思ったのです。

自分の考えが正しいと押しつけてばかりで相手がどう感じるかなんて考えもしなかったのです。生意気で鼻持ちならない私と自分ありきで天狗になっていた私が見えてきたのです。先生のお話によって、自分の姿が浮き彫りにされたのです。

今回の旅行は、私にとって実に多く大きな収穫を得ることができました。



奈良 フランス料理店「ムッシュペペ」

お葬式・法事

―仏教が伝わる場―

先日の法事で、「葬式の意味が解らない。不必要だと思えます」と、二十代の男性が正直に言いました。周りの老人たちは、少し慌て「とにかく大切」だと、取り繕っていました。

新型コロナウイルス感染症が蔓延していた三年間に葬式は簡素化し、都会では通夜のない葬式や火葬だけが多くなったと聞きます。この辺りでも家族だけで葬式を過ごすことが増えました。縁の薄い親戚や隣り近所を本客として招くことは少なくなりました。日頃の親戚付き合いや近所付き合いが少なくなり、関係性も薄くなりましたから合理的に変化したともいえます。遺体の処理も、葬儀社がしてくれるので大丈夫です。

しかし、何か大事なことが抜け落ちてしまったようで淋しい、という声も聞かれます。

お葬式は、死んだ人を葬る儀式。しかし骨にして墓に納めて終わりでは、気持ちが納まらないのが人間なのでしょう。

法事の席で老人が「とにかく

大切」と慌たのも、そんな心からでしょう。

悲歎から回復するプロセス

「人は必ず死ぬ」と、誰もが解ってますが、身近な人となると受けとめられませんか。一年の内に長男と夫を亡くした女性が、「気持ちが追いついていかない」と悲歎していました。

「喪失体験に伴う『悲嘆のプロセス』―大切なものを失う苦しさからの回復―」という心療内科の医師の文章があります。そこに示されていたのは、

①ショック②否認③パニック④怒り・敵意・うらみ⑤深い悲しみ⑥罪意識⑦孤独感と気分の落ち込みと無関心⑧あきらめ・受容・新しい自分への成長、の八段階でした。これを行きつ戻りつだんだんと回復していくのだそうです。

儀式の執行と法話

僧侶は、枕経から通夜・葬儀式・火葬・還骨勤行、そして初七日・七七日・納骨と、儀式を勤め法話します。

これらにより、まさに遺族の悲歎からの回復のプロセスに寄り添ってきたのでした。

仏教は、どんな教え？

「縁起の道理」、これが仏教です。すべてが相互に関係し、成るように成っており成って行く、と教えています。

どうにもならない現実

一周忌の法事を勤めた時のことでした。

故人の末娘が一人だけで私を迎えましたので、理由を尋ねると「兄が病で急に入院し、姉の夫も大変な手術を受け退院したばかりなので来られなくなった」ということでした。

本願念仏の救い

お勤めをし法話が終わると、彼女が微笑み静かに語りました。「一人での法事は淋しいです。頼りにしている兄ですから、毎日、回復して欲しいと祈っています。でも成るようにしか成りません」。

この言葉に、彼女が仏教を生きている証しを感じ、どうにもできない現実（縁起の道理）を念仏申し堂々と生きる真宗門徒の姿を見たのでした。

南無阿弥陀仏
宗教に、奇蹟を求めることはできません。

役員交代

三月三十一日に田村晋一氏が責任役員に就任し、川名喜昭氏が総代となりました。

世話人交代

市井原	川名	三枝子氏
大崩	石井	久氏
中佐久間②	重田	明美氏
下佐久間①	富永	清人氏

よろしくお願いします。

川名昇様・石井俊幸様・中山明夫様・富永昇一様、お疲れさまでした。有難うございました。

ご予約ください

月曜日朝のお勤め	毎週6時～
6月4日14時～	勝善寺聞法会
6月8日9時～	八日講十日講
6月11日8時30分～	奉仕作業
7月23日14時～	同朋の会
8月10日10時～	孟蘭盆会

お知らせ

慶讃法要事業に際し宗門より二千十九年から募財が行われ、当寺割当て六十五万七千円は、すでに完納しております。台風禍・コロナ禍と続きましたので、募財を控えました。